

## 番組審議会報告

第603回11月17日開催

### ■ 出席委員

櫻井美幸委員長、佐藤友美子副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、小菅洋人委員（書面参加）、佐藤卓己委員、津村記久子委員、中野健二郎委員（書面参加）、東野博昭委員、細見良行委員

### ■ 毎日放送出席者

三村社長、梅本専務、木田取締役、西田取締役、西村取締役  
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長  
虫明ラジオ局長、島プロデューサー

### ◆ 審議事項

ラジオドラマ

「手塚治虫の どついたれ 大阪大空襲」

(2015年5月25日(月) 20:00~21:00 放送)

(2015年11月1日(日) 25:00~26:00 再放送) について意見交換した。

### 【各委員の主な意見は次の通り】

- \* 主人公のせりふが関西弁で、同じ俳優によるナレーションが標準語だったので少し混乱したが、ふだん聞かないラジオドラマを退屈することなく楽しめた。
- \* 1時間というまとめ方がよく、引き込まれて聞き入った。効果音なども耳に心地よく、情景が想像で浮かび上がってきた。
- \* 戦中から戦後の風俗を描いてそれなりに成功している。戦争を知らない世代に啓蒙しようという意図は感じられたが、大阪大空襲一つとってみても、受け手である今の若者にどれほど知識のバックグラウンドがあるのだろうかとも思った。
- \* “ながら族”としてラジオに親しんできた世代だが、今回、じっくりドラマを聞くという経験はすごく新鮮だった。1時間という長さについては、テレビの朝ドラみたいに、連日15分ぐらいにして放送するという手法も面白いのではないか。
- \* 音へのこだわりはもちろん、物語自体も人間のディテールがちゃんと再現されていて感心した。プロットが、「戦争って悲惨やで」ということを、ただただ言い続けるのではなくて、ちゃんと展開していたからこそ聞けたのだと思う。ただ、10年後のオリジナル部分には正直、違和感を覚えた。

- \*この手の1時間番組を今の時代、「どうしたらもっとみんなに聞いてもらえるだろうか?」と、そんなことを考えながら聞いた。場面を盛り上げるためによく使われる音楽を今回、意図して極力抑えていたのは新鮮だったし、リアル感がものすごくあった。
- \*ストーリーに意外性があり、かつ展開がスピーディーなので1時間があっという間だった。反面、内容を凝縮した結果、それぞれ場面が説明不足となって、“あっさりとした感じ”が残った。
- \*「生きる」ことの壮絶さ、運命の過酷さが、多彩な声優陣によって「臨場感」あるラジオドラマになった。さまざまな世代が、あらためて戦後の混乱期の日本の「人の生きざま」に触れられる番組として良かった。
- \*登場人物が多くて、それぞれの役割とかを考えると、1時間でストーリー展開をしていくことの無理というか、その辺が少し感じられたが、子どもたちも働かざるを得なかった戦後の雰囲気はよく出ていた。
- \*1回目は気づかなかったが、繰り返して聞いて初めてディテールの音がしっかり表現されていることがよくわかった。物語自体、要素が盛りだくさんだったので、クライマックスを作るとか、キャラクターをもう少し絞るとかしたほうが、“深み”が出たのではないかな。

以上